

第94回オープンソースサロン

しまね OSS 協議会 顧問 田中哲也

平成 27 年 7 月 10 日 (金)

今巷では、地方創生の話題で賑やかです。地方創生は人口問題（減少と偏在）に対するものであり、20 年、30 年先を見据えた長い長い取り組みが必要となります。だからこそ、若者や女性の地域づくりへの第一歩（参加）と人づくりが欠かせません。

しかし、地域においては高齢化、核家族化などもあり、次（世代）を担うプレイヤー不足が深刻な課題となっています。

1 会社ではない自主活動の組織について

会社ではない多様な組織や個人が、「協働」のとりくみを具現化させるには、さまざまな人が交流できる場と仕組みを用意する必要があります。

仕組みがよければ、交流が促進されて、化学反応が起こり、予期もしない活動が生まれて来る場となります。

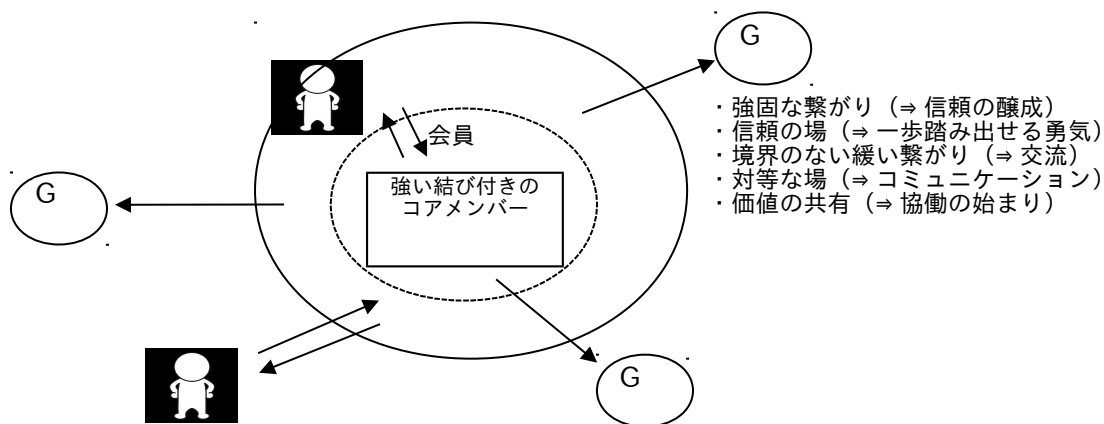
私は、しまね OSS 協議会こそが、それを実現している数少ない場であると思っています。しまね OSS 協議会は、コアメンバーと会員、それを取り巻く人達との緩やかな集合体です。

この組織は 10 年近く活動していますが一切の動員もなく継続し、緩やかな集まりの中から Ruby プログラミング少年団⁽¹⁾

を始め、Matsue.rb⁽²⁾、山陰 ITPro 勉強会⁽³⁾ などさまざまな団体やコミュニティが誕生し、地域に留まらない活動がなされています。

誕生した団体やコミュニティは、価値観を共有しているので、居心地のいい場であり、まさに、地域や組織、利害を超えた人と人とのコミュニケーションを通して、知識を広げる豊かな空間となり、個々のモチベーションが維持され、持続可能な取り組みとなっています。

この様な取り組みを 10 年持続してきた要因は…、核分裂のように活発なコミュニティが生まれているのは…、なぜでしょうか。



2 集い、教えあい、学びあう

そこにはコアメンバーの献身的なサポートによる信頼の醸成や、誰もが対等で心地

よくいれる場、強い結び付きのコアメンバーと会員、それを取り囲む出入り可能な緩い場がうまく融合した空間が形成されてい

ます。

長期にわたり化学反応（新しい発想や活動・協働）を引き起こすのは、このような、会社員も学生も街の人も行政も、肩書きや年齢、性別に関係なくコミュニケーションとコラボレーションが可能な場づくりがあったからだと考えます。

しまね OSS 協議会を今日まで引張っていただいている井上会長、野田副会長、コアメンバーの皆様に深く感謝と敬意を表します。

3 新たな環境づくりに

この素晴らしい交流の場が「もっと広がれば」、「もっと多くの共感と化学反応を」、と願うのは私だけでしょうか。

しまね OSS 協議会が発足⁽⁴⁾した当時は、まだ多くの組織が従来とは 180 度異なる脱工業化社会の到来⁽⁵⁾を感じながらも、今日の情報・知識社会への変化と社会的存在への要求の流れを想像出来ずにいました。

個人を取り巻く状況も多様化しました。

10 年の歳月で、組織も個も大きくマインドは変化しました。

本日は報告いたします開発合宿は、新しい環境づくりに力を注ぎたいとの思いから、関東・関西のエンジニアのみなさんのご協力を得て、企画・実行したものです。

是非、さまざまなご意見をいただきたいと思えます。

(1) <http://smalruby.jp/>

(2) <http://matsue.rubyist.net/>

(3) <http://sitw.techtalk.jp/>

(4) <http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/NEWS/20060904/247102/>

(5) <http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20080526/304047/>